

# 一歩でも、前へ

## 職場でも、ラグビー魂を生かして

緑生園（岩手県盛岡市）





ファイト、ファイト！



中央突破してゴールを目指す



すばやくパス



がんばろうぜ！



気持ちいい



前進だ、押し、負けるな！

ラグビーを取り入れたユニークな指導で知的障害者の自立を後押ししている、岩手県盛岡市の知的障害者更生施設「緑生園」のラグビーチームが「日本スポーツ賞」(読売新聞社制定)注の二〇〇二年度競技団体別最優秀賞を受賞した。

三十年以上にわたるラグビーへの着実な取り組みと、ニュージーランドの知的障害者チームとの交流等が高く評価されたもので「岩手ラグビー界の誇り」と称えられている。

創設者である初代園長の中野芳幸氏が利用者の体力づくりのために緑生園にラグビーを取り入れたのは、一九七〇年十二月のことだった。

「就労による自活の道を確保し、社会生活と自立を目指す」を施設の指導援助の目標とする緑生園は、一歩でも前へ進む、仲間との協調性、忍耐力、判断力、闘志、根性、約束、礼儀などのラグビー精神が、知的障害者の育成に効果があると考えたからだ。

七三年六月には岩手県ラグビーフットボール協会に加盟し、日本ラグビーフットボール協会にも登録された。

「毎日の反復練習や試合を通して、園生たちはそれぞれの自立に向かって育っていきたくています。練習試合をすることで、地域との交流や連帯も生まれ、社会人としても活躍しています」と話す畠山文裕園長。

今後、知的障害者のラグビーチームが全国各地に広がれば、「ジャパンチーム」をつくって世界へ前進したい、とつげ加えた。

(注) 日本スポーツ賞とは1951年に読売新聞社が制定。毎年、我が国のスポーツ全48競技団体から推薦された優秀選手、またはチームの中から「日本スポーツ賞委員会」による慎重な選考を行い、日本スポーツ界の最高の選手またはチームを選び、栄えの「日本スポーツ賞」受賞者を決定するものです。



「2002年・第52回日本スポーツ賞」記念トロフィー



緑生園のラグビー史を紹介する島山文裕園長



草創期。園の庭や雫石川河川敷で練習（写真提供：緑生園）



ラグビー王国、ニュージーランドの知的障害者ラグビーチーム「サウスオークランド・キウィーズ」との親善交流試合。2001年8月にはニュージーランド遠征を行い、2002年9月には日本でも交流試合を行った（写真提供：緑生園）



1992年から指導にあたる中央大学OBの松田政樹全緑生園ラグビーチーム監督（34歳・中央）。「職業は会社員です。毎週の練習は自分のほうが楽しくて、女房もあきらめて、今は応援してくれています」



OBクラブのキャプテン、小田島幸宏さん（27歳）。みちのくココ・コーラボトリングのリサイクルセンターで働いている  
○みちのくココ・コーラボトリング株式会社花巻工場  
〒025-0037 岩手県花巻市太田第29地割  
TEL 0198-28-2260 FAX 0198-28-2269



練習試合が終わったあとの反省会



スクラムハーフで活躍する<sup>もろもろ</sup> 岩手 岩手照男さん。現在、松田監督の友人、蛇口義直さんの経営するかまぼこ店で働いている  
○有限会社丸三かまぼこ 〒020-0064 盛岡市梨本町6-2 TEL・FAX 019-622-2668

●社会福祉法人 岩手更生会 知的障害者更生施設 緑生園（島山文裕園長）  
〒020-0854 岩手県盛岡市上飯岡2地割51-3 TEL 019-639-6170 FAX 019-639-6171



スタンドオフの工藤達夫さん（30歳）は仕事も熱心。洗濯機・乾燥機を一人で担当している（株）クリーンピアいわて



工藤さん、高柳さんなど緑生園の卒業生5人が働いている株式会社クリーンピアいわて  
 ○株式会社クリーンピアいわて  
 〒020-0832 盛岡市東見前1地割145  
 TEL 019-637-5555 FAX 019-637-3551

OBチームの事務局であり、進路指導にあたる緑生園の佐藤新吉主任指導員（中）。工藤さんたちの仕事ぶりをクリーンピアいわての芦文雄総務部長（右）から聞く。「ラグビーを通して学んだ、くじけない点がいい」



クリーンピアいわての創業時から働いている高柳勝弘さん（31歳）は“張り切りボーイ”で、歌と踊りにも熱心